

港湾局長の海外出張について

平成26年度の港湾局長の海外出張についてお知らせします。

1 出張者及び出張先

出張者: 港湾局長 多羅尾 光睦

出張先: ハンブルク港(ドイツ)、 ロッテルダム港(オランダ)、 バレンシア港(スペイン)

2 出張期間

平成27年1月25日(日曜日)から同年2月1日(日曜日)まで(6泊8日)

3 出張用務

欧州の港湾管理者や物流企業を訪問し、管理や運営に関する情報を収集するとともに、東京港のPR活動を行う。

4 経費

1, 100, 330円

5 同行者数

2名

6 出張先での行動

1月25日(日曜日)

移動(羽田→ハンブルク)

1月26日(月曜日)

ハンブルク港訪問(港湾管理者訪問、コンテナターミナル等現場視察)

1月27日(火曜日)

移動(ハンブルク→ロッテルダム)

1月28日(水曜日)

ロッテルダム港訪問

(港湾管理者訪問、姉妹港提携 25 周年行事実施、マースフラクテ等現場視察)

1月29日(木曜日)

ニチレイ・ホールディング・オランダ B.V.訪問(Euro Frigo 社、HIWA 社視察)

移動(ロッテルダム→マドリッド)

1月30日(金曜日)

バレンシア港訪問(港湾管理者訪問、TCV コンテナターミナル等視察)

1月31日(土曜日)

移動日(マドリッド→フランクフルト経由)

2月1日(日曜日)

帰国日

7 出張の成果

(1) ハンブルク港

ハンブルク港湾公社を訪問し、コンテナターミナル、鉄道網コントロールタワー等の視察を行った。ハンブルク港で荷揚げされる貨物の3割以上が鉄道で輸送されており、地球環境へ強い意識をもった港湾経営を行っている。

(2) ロッテルダム港

ロッテルダム港湾公団において姉妹港提携 25 周年行事を実施し、東京港とロッテルダム港のさらなる関係強化を図った。また、最新の埋立計画「マースフラクテⅡ」開発エリアでのコンテナターミナル視察を行った。ユーザーのニーズに迅速かつ大胆に対応していく姿勢は、今後の東京港の運営の参考となった。

さらに、ニチレイ・ホールディング・オランダ B.V.社を訪問し、欧州での貨物取扱について最新情報を入手するとともに、関連企業であるユーロフリゴ社、ヒワ社の現場視察を行い、現地に根差した経営についてお話を伺った。

(3) バレンシア港

バレンシア港湾公社を訪問し、港湾経営について意見交換を行うとともに、今年度から日本企業 2 社が運営に参画している TCV コンテナターミナルを視察した。バレンシア港の取扱貨物の半分以上はアジア関連であることから、東京港との共通点が多い港であり、今後も連携を図っていくことが両港の発展に有効であると感じた。

8 お問い合わせ先

港湾局港湾経営部振興課

03-5320-5529